

日本海ケーブルネットワーク株式会社（NCN）

2016年度放送番組審議会議事録

■日時：2017年3月23日（木）午後1時半～3時

■場所：日本海新聞本社ビル6階会議室（鳥取市富安2丁目137番地）

■出席者

審議委員：河村壮一郎（会長、鳥取短期大学教授）、福田京子（副会長、地域づくりネットワーク代表）、富山茂（鳥取市情報政策課長）、美船誠（倉吉市総合政策課長）中島理恵（岩美町総務課広報係＝代理出席）藤井博美（三朝町三朝区長）井本静治（岩美町）澤田真之介（鳥取銀行本店営業部次長）

※役職は当時、敬称略、順不同

NCN：倉繁淳志（常務取締役）西尾広海（常務取締役）中嶋信行（編成制作部長・広告課長）川口耕（編成制作部制作課長）

■報告事項

①2016年度の取り組みについて

NCN自主放送番組について2016年2月1日から2017年3月1日までの取り組みを報告した。

②鳥取中部地震、2月の大雪への対応について

2016年10月の地震と本年2月の大雪について自主放送番組の取り組みを報告。

■協議事項

・自主放送番組について

平日放送の「ピットステーション」や新番組の「なないろ」「フォーカス鳥取」、県内ケーブルテレビ局との共同制作番組など、番組内容をVTRで紹介し、取り組みなどを資料とともに説明した。また、4月に予定している番組改編の方向性についても紹介し、意見を募った。

委員からの意見、提言と事務局の回答は次の通り。

（委員）今回の地震と大雪の際に減災・ライブチャンネルを見る機会があった。事務局側からライブカメラを設置できれば、という話があったが、ライブカメラは災害時に行動しようという人にとって有効な手段だ。費用を含めて課題もあると思うが、

ぜひ取り組んでほしい。また、災害時の対応について行政担当者などにインタビューしていたが、今の地域の状況について知ることができた。他の放送局が手の届きにくい小さな部分をこれからも大切にしてほしい。

(委員) 住民に情報発信する上で映像の力は大きく、NCNの繰り返し放送は有効なものとして働いたように思う。倉吉市では災害の振り返り、計画づくりを進めている。今回の情報の伝達、発信についても行政と取り組みを共有し、連携してもらえればと思う。

(事務局) インタビューについては忙しい中、行政の幹部の方に積極的に応じていただいた。地域の方々にできるだけ早く必要な情報を届けたいという思いから、発信方法を手探りする中でたどり着いたのが、あの手法だった。結果的には効果があったと感じている。

(委員) 地震の時も大雪の時も生活に関する情報をできるだけ詳細に知りたいと感じた。勤務している短期大学では、地震の際、JRの運転がストップし、なかなか自宅に帰れない学生がいた。また、大雪の際もいつのタイミングでJRの運行が再開するのか分からず、右往左往する学生もいた。今どうなのかという情報を発信できると、もっと住民の役に立てるのでは。

(事務局) 今回、ホームページなどで発信される情報は全体の一部でしかないことを実感した。取材する社員が今こういった情報が求められているのかを考え、直接聞き取りすることで情報の精度を高めていきたい。

(委員) 災害証明の発行手続きなどは一度見ても頭に入らないことが多い。手続きの注意点などを繰り返し見られるようにしたことは、ケーブルテレビならではの取り組みと言えるのではないか。あとは、ケーブルテレビでこういう情報が流れているということを住民にもっと周知できると、視聴も広がるのでは。

(事務局) 地震の際の視聴率調査では自主放送番組の視聴は、直後は伸びなかったが、時間の経過とともに少しずつ伸びていった。地上波のテレビ局のように一時に人員を集中することはできないが、継続的に情報を発信できることがケーブルテレビ局の強み。その点は今後も生かしていきたい。周知の点ではグループである新聞社や行政などの協力も得ながら、積極的に取り組んでいきたい。

(委員) 空から地域を眺める番組をよく見る。ふるさとの姿が違う角度から見ることで興味深い。ドローンなどを採り入れて普段見ることができない地域の姿を見られると幅が広がるのでは。NCNについて地元では以前よりも番組のバリエーションが増えたという話を聞くようになった。地元の人たちの姿がテレビを通じてたくさん見られるとうれしい。

(委員) 映像に登場する機会の少ないスポーツをもっと積極的に取り上げてほしい。また、各地で美術展覧会が開かれている。結果だけではなく、作者や作品について時間を割いて紹介してもらおうと、地元で活動している人たちの励みになるのでは。

(事務局) 各分野ともできることは、まだあると思う。意見を参考に従来のかたちにとらわれず、幅広く捉えていきたい。また、スポーツ中継など人手を必要とするものも県ケーブルテレビ協議会で取り組みを進めている。できることを一つでも増やしていけるよう努力したい。現在、番組改編に合わせて美術分野の団体の活動と作品を紹介するコーナーを検討していることも申し添えておく。

(委員) 一般の住民がこういった話題を取り上げてほしいという要望に応える体制をどう構築しているのか。また、そもそも応じてもらえるものなのか。

(事務局) 現在もスタジオでのイベントPRや外部に赴いてのイベント紹介を積極的に行っている。今後の番組改編では、そうした要望に応え、地元の人たちと一緒に番組づくりに取り組めるかがポイントになると考えている。受け付ける窓口や周知についても今後、工夫してみたい。

(委員) 岩美町チャンネルをととても重宝している。スタッフに気軽に声を掛けられ、PRもしてもらえるからだ。4月には地域でイベントを計画している。今後もさまざまな分野で活用していきたい。

(事務局) 番組を見てもらえるきっかけ作りが大切だと考えている。こちらから出向いて取材し、これまで以上に地域との接点を増やしていきたい。引き続き取材や撮影にご協力願いたい。